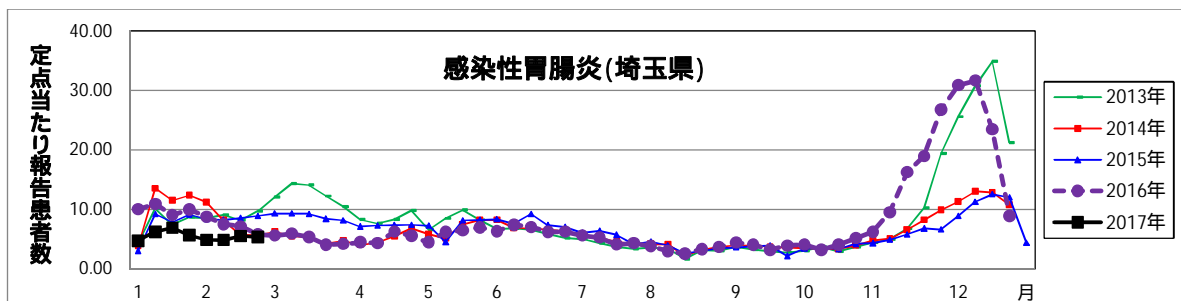


## 感染性胃腸炎 - ノロウイルス検出状況 -

感染性胃腸炎はノロウイルスやロタウイルス等のウイルスの他、細菌や寄生虫によって引き起こされる胃腸炎です。毎年秋から冬にかけては、ノロウイルスによる胃腸炎患者が増加します。感染症発生動向調査における報告患者数では、平成28年11月から年末にかけて大きな流行が確認されました(図)。今回は、感染性胃腸炎と診断された患者から採取された検体の検査結果について報告します。

図 感染性胃腸炎 定点当たり報告数の推移



県域の医療機関で2016年11月～2017年2月に採取された感染性胃腸炎の糞便及び吐物、22検体(0歳～58歳うち4歳以下が13件)を検査したところ、ノロウイルスが11件、アデノウイルス40/41型2件、A群ロタウイルス1件、ウイルス不検出8件でした(表)。ノロウイルス11件のうち7件が4歳以下の乳幼児からの検出でした。ヒトに感染するノロウイルスは、主として遺伝子群GとGであり、Gには9種類、Gには22種類の遺伝子型が報告されています。上述の11件のノロウイルスのうち、遺伝子解析を終了した5件では、4件が遺伝子型G.2、1件がG.6でした。

表 感染性胃腸炎検体のウイルス検査結果 (検体採取期間：2016年11月～2017年2月)

検出されたウイルス	ノロウイルス(G )	11件
	アデノウイルス40/41型	2件
	ロタウイルス	1件
ウイルス不検出		8件

全国の検出状況は、国立感染症疫学センター(<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-noro.html>)から報告されており、同時期では埼玉県同様、ノロウイルスの検出は乳幼児が約半数を占め、遺伝子型ではG.2が最も多く半数以上を占めていました。

3月にはロタウイルスによる胃腸炎が増加します。病原体定点の先生方におかれましては、検体採取に御協力お願いいたします。